

inangim
inangim
私の信仰

单元
2





信仰と人間

1. 信仰とその重要性
2. カリマ・タウヒード (神の唯一性についての言葉) と
カリマ・シャハーダ (信仰告白の言葉)
3. 信仰と行動のつながりという観点からの人間
4. 信仰—知識—行動のつながり



単元について

この単元では、

- ムスリム（イスラーム教徒）であることの根本である信仰について述べられています。信仰と人間とのつながりを見ていくうえで、まず信仰とは何であるか、そしてその重要性を示します。
- ある人がムスリムと見なされるための最初の条件であるカリマ・タウヒードとカリマ・シャハーダの意味が説明されています。
- それから、信仰と行動の関係の観点から、人間について触れられています。
- 信仰の観点からの人間の特性が示されています。
- 信者、偽信者、不信心者、そして多神教徒の特性が示されています。心から神を承認することである信仰は、知識や行動と深く結びついているため、信仰—行動のつながりと信仰—知識のつながりが詳細に示されています。
- 知識が信仰に与える影響が模倣と確証という二つの形で示されています。

学習目標

この単元を終えたときには、次のような目標に到達することができます。

1. 信仰の定義を説明する。
2. 信仰の重要性を説明する。
3. 信仰の重要性に関連するアーヤ（節）とハディースの意味を説明する。
4. 信仰と教えの否定との違いを説明する。
5. カリマ・タウヒードとカリマ・シャハーダを唱える。
6. カリマ・タウヒードとカリマ・シャハーダの意味を述べる。
7. カリマ・タウヒードとカリマ・シャハーダのイスラームにおける位置づけを説明する。
8. 心と受け入れの定義を説明する。
9. 心と受け入れの重要性を説明する。
10. 信仰と行動の観点から人をカテゴリ化する。
11. 信者、偽信者、不信心者、そして多神教者の概念を理解する。
12. これらの概念の相違点を説明する。
13. 信仰—行動の観点からのカテゴリ化の例を示す。
14. 信仰と行動のつながりを説明する。
15. 信仰と行動のつながりの例を示す。
16. 信仰がもたらす良い行動の例を示す。
17. 自らの行動を、信仰と行動のつながりの観点から確認する。
18. 信仰と知識のつながりを説明する。
19. 信仰と知識のつながりの例を示す。
20. 自らの信仰の知識の段階を確認する。
21. 行動について、信仰と知識のつながりという観点から確認する。

学習時には

1. 単元の冒頭に掲げられた目標に到達できているかどうかを確認しましょう。到達できていない項目は再び読んでみましょう。
2. 単元の中で取り上げられている研究、考察は必ず実行してください。

1

信仰とその重要性



信仰は、何らかの存在を心の安らぎのうちに自らのものとし、それを深く心から信じることです。この点で、信仰においては信頼と心の安らぎを得ることが課題となります。

- 信仰には、それにまつわる事柄を正しいと認め、評価し、受け入れる必要があります。
- 信仰の根本は心でそれを認めることです。信仰の対象となる事柄のすべてを信じることなく、それらの正しさについて疑いを持っているならば信仰したことにはなりません。
- 信仰には、信じていることを表明すること、つまり言葉で告白することが必要です。ただし信仰において、心から信じ受け入れることと、それを口に出して告白することは同じ次元での条件ではありません。同時に、人の心にあるものはただアッラーのみがご存じです。言葉による告白は、信仰が他者によって認識される上で意味を持ちます。

信仰に関するハディースと考察

イスラームにおいて信仰とは、崇高なるアッラーから預言者ムハンマドを通してもたらされたものが真実であると認め、それらを心から信じることです。あるハディースでは次のように伝えられています。

預言者ムハンマドが教友たちと共に座っておられたとき、一人の白い服を着た男性が来て、預言者ムハンマドの前に座りました。そして預言者ムハンマドに、

「信仰とは？」と尋ねました。

預言者ムハンマドは「信仰とは、アッラー、天使たち、啓典、預言者たち、審判の日、運命、その善と悪を信じることです」と言われました。

男は「イスラームとは？」と尋ねました。

預言者ムハンマドは「イスラームとは、アッラーを称え、アッラーに何ものかを配することを決して行わず、礼拝をし、義務であるザカートを支払い、巡礼を行い、断食をすることです」と答えられました。

男は「イフサーンとは？」と尋ねました。

預言者ムハンマドは「イフサーンとは、アッラーを目にしているかのようにアッラーに崇拜行為を行うことです。あなたがアッラーを見ていなくても、アッラーはあなたをご覧になっているのです」と答えられました。そして男はその場を去ったのでした。（ブハーリー、イーマーン37、ムスリム、イーマーン、1. 5）



考えてみましょう

上記のハディースが語っているものは何でしょうか？

詩

私はアッラーが唯一であると知る
その存在を信じる
天使を創造されたのもそのお方
真実を創造されたのはそのお方

啓典は真実の勅令であり
啓典は正しい道である
預言者たちはその崇高なるお方の
教えの道における使者である

来世には定めの日と
復活の日、罰則の日がある

善も悪も運命はアッラーからであり
人はすべてアッラーに依る

死んだしもべたちは復活し
真実の裁きが行われる
その感覚によって魂に満ちる
アッラーを、私は唯一であると知る

預言者であり、しもべでもあられる
ムハンマドを私は信じる

エンヴァル・トゥンチュアルプ



話し合ってみましょう

上記の詩を参考に、信仰するべき事柄について話し合みましょう。



話し合ってみましょう

「アーメントゥ」の意味を理解し、その内容について考えてみましょう。

24

- 信仰は人の行動に影響を及ぼし方向性を与えます。なぜなら信仰は、思考、感情、行動と緊密なつながりがあるからです。この観点から信仰は、私たちの自我のすべてを包括するものです。
- 信仰は私たち自身、他の人々、生命を持つもの持たないものすべての被造物との関係に方向性を与えます。
- アッラーを信じる人は、人々やその他の被造物に対する責任を、最善の形で果たそうとします。災いに直面しても動揺せず、希望を失うことはありません。
- 信仰は物質的、精神的な諸問題を解決し、それら乗り越える上で私たちに力を与えます。信仰によって私たちは、現世での生活におけるすべてが試練であることを認識しています。この観点から信仰は、私たちの行動の源であり、宝庫でもあるのです。
- 信仰は、すべての崇拜行為と行動の原動力となります。それらに意義を与えるのは信仰です。なぜなら信仰においては、認識を伴った心からの受け入れが必要だからです。認識を伴っていることが、行われる事柄を有意義で尊いものとするのです。



考えてみましょう

- 信仰は私たち自身、他の人々、生命を持つもの持たないものすべての被造物との関係に方向性を与えます。
- 信仰は、すべての崇拜行為と行動の原動力となります。
- 信仰は、生命を持つ被造物に対する人間の責任に意味を与えます。

2

カリマ・タウヒード(神の唯一性についての言葉)とカリマ・シャハーダ(信仰告白の言葉)

カリマ・タウヒードとカリマ・シャハーダは、イスラームの教えを受け入れること、すなわちイスラーム教徒、信者としての最初の条件である心に定着した信仰を示し、明らかにするものです。イスラーム教徒であるための不可欠な条件は、信仰告白が示しているメッセージを受け入れることです。

カリマ・タウヒード

- アッラーの存在、唯一性、アッラーが無からすべてを創造される唯一の創造主であること、預言者ムハンマドがアッラーの使徒であることを示す言葉です。
- 読み方：ラーイラーハ・イッラッラー、ムハンマダン・ラスールッラー
意味：アッラーの外に神はなく、ムハンマドはその使者である

カリマ・シャハーダ

- カリマ・シャハーダは「証言する言葉」という意味です。これは人が何らかの事柄の正しさを証言することを意味します。
- 読み方：アシュハド・アン・ラー・イラーハ・イッラーラー、ワ・アシュハド・アンナ・ムハンマダン・アブドゥフ・ワ・ラスールフ
意味：アッラーの外に神はなく、ムハンマドはその使者であることを私は証言する
カリマ・タウヒードは、アッラーの唯一性と預言者ムハンマドが預言者であることを認めるものであり、カリマ・シャハーダはその承認を目で見えるかのように強める意味があります。



話し合ってみましょう

- 信仰の定義について考え、カリマ・タウヒードを認めた人がなぜイスラーム教徒と見なされるのか話し合ってみましょう。
- カリマ・タウヒードを認めることは、人の考えや心にどのような変化をもたらすでしょうか。
- カリマ・シャハーダとカリマ・タウヒードの意味を考えてみましょう。
- イスラームを新しく受け入れた人は、なぜカリマ・タウヒードとカリマ・シャハーダを唱えるのでしょうか。



メモを取りましょう

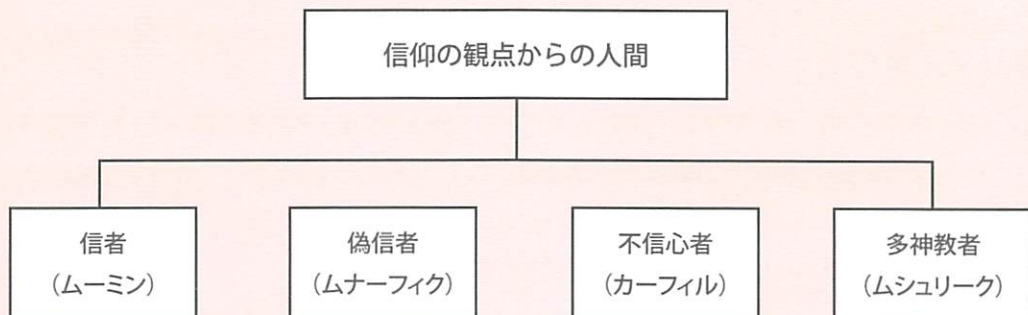
- 読み方：ラーイラーハ・イッラッラー、ムハンマダン・ラスールッラー
- 意味：アッラーの外に神はなく、ムハンマドはその使者である
- 読み方：アシュハド・アン・ラー・イラーハ・イッラーラー、ワ・アシュハド・アンナ・ムハンマダン・アブドゥフ・ワ・ラスールフ
- 意味：アッラーの外に神はなく、ムハンマドはその使者であることを私は証言する

3

信仰と行動のつながりという観点からの人間



信仰の観点から、人間にはそれぞれに違いがあります。信仰には、心、知識、そして行動という次元があります。人はイスラームの教えを信じ、その正しさを認め、それによって行動するという点で個々に異なる存在です。信仰の観点から、人間は四つのタイプに分類することができます。



信者 (ムーミン)

信者 (ムーミン) とは、アッラーを信じ、預言者ムハンマドにアッラーから啓示されたすべてが正しいと心から認める人です。信者は同時にムスリムです。クルアーンでは信者 (ムスリム) のいくつかの特性を次のように明らかにしています。

信者 (ムーミン) の特性

- 信者は真の救いに至る。
- 彼らは礼拝のときアッラーへの深い畏敬の思いを抱く。
- 彼らは役に立たない事柄や、空虚な言葉から顔をそむける。
- 彼らはザカートを支払う。
- 彼らは高潔さを守る。
- 彼らは託されたものや自らの約束を尊重する。
- 彼らは継続的に礼拝を行う。
- 「これらの者こそ本当の相続者で、フィルダウス (天国) を継ぐ者である。かれらはそこに永遠に住むのである」 (信者たち章第1-5節, 8-11節)



考えてみましょう

クルアーンで、信者の特性を説明している他の章句を見つけてみましょう。

ムスリム

その本質には正しさがあり

その言葉には嘘はない

ムスリムは苦しむ人に手を差し伸べる

ムスリムの道とは常に知の道である

唯一のアッラーのしもべである

イスラームの道をムスリムは行く

ムスリムの意図は現世と来世である

その声は常に正しさと共にある

ムスリムはハラームを避ける

幼子を愛し、また幼子から愛される

目上の人を尊重し、その話を聞く

ムスリムはイバーダを喜んで行う

(クルアーンを学ぶ教育プログラム, 87)



話し合ってみましょう

- ・上記の詩を参考に、信者には他にどのような特性があるか考えましょう。
- ・信者はなぜこのような特性を持つべきなのでしょう。

偽信者 (ムナーフィク)

- 偽信者 (ムナーフィク) は、二面性を持っています。偽信者はアッラーの唯一性と、預言者ムハンマドが預言者であることを認めると口にし、ムスリムであるかのように見えます。しかし彼らはそれを心から信じてはいません。
- 偽信者は、信仰において中身と外見が異なる人です。口にする 것과本質が一致していません。



考えてみましょう

信仰において心からの承認は不可欠な条件ですが、言葉でそれを述べることは不可欠な条件ではありません。それはなぜでしょうか。

偽信者の特性

崇高なる書クルアーンでは次のように述べられています。

- 「また人びとの中、『わたしたちはアッラーを信じ、最後の (審判の) 日を信じる。』と言う者があ
る。だがかれらは信者ではない。
- かれらはアッラーと信仰する者たちを、欺こうとしている。
- (実際は) 自分を欺いているのに過ぎないのだが、かれらは (それに) 気付かない。
- かれらの心には病が宿っている。
- アッラーは、その病を重くする。

- この偽りのために、かれらには手痛い懲罰が下されよう。
- 『あなたがたは、地上を退廃させてはならない。』と言われると、かれらは、『わたしたちは矯正するだけのものである。』と言う。いや、本当にかれらこそ、退廃を引き起こす者である。だがかれらは（それに）気付かない。
- 『人びとが信仰するよう、信仰しなさい。』と言われると、かれらは、『わたしたちは愚か者が信仰するように、信じられようか。』と言う。いや、本当にかれらこそ愚か者である。だがかれらは、（それが）分らない。
- かれらは信仰する者に会えば、『わたしたちは信仰する。』と言う。だがかれらが仲間の悪魔〔シャイターン〕たちだけになると、『本当はあなたがたと一緒なのだ。わたしたちは、只（信者たちを）愚弄していただけだ。』と言う。だがアッラーは、このような連中を愚弄し、不信心のままに放置し、当てもなくさ迷わせられる。これらの者は導きの代わりに、迷いを購った者で、かれらの取引は利益なく、また決して正しく導かれぬ。」（雌牛章第8-16節）

偽信者は、見かけは信者のようですが実際には信者ではありません。彼らがアッラーの道を逸れた理由は、まず信仰し、その後それを否定したことです。それゆえに心が閉ざされてしまったのです。



「それは、かれらが一度信仰して、それから不信心になったため、かれらの心は封じられ、そのためかれらは理解しない。」（偽信者たち章第3節）

「本当に偽信者たちは、火獄の最下の奈落に（陥ろう）。あなたはかれらのために、援助する者を見いだせない。」（婦人章第145節）



考えてみましょう

- ・偽信者は、誰を欺いているのでしょうか。
- ・偽信者の取引は、なぜ彼らに益をもたらさないのでしょうか。

偽信者は、崇拜行為を行っているかのように見えても、実際には行っていません。彼らはただ、人を欺き、見せかけの崇拜行為を行っているのです。クルアーンでは次のように述べられています。



「かれらを譬えれば火を灯す者のようで、折角火が辺りを照らしたのに、アッラーはかれらの光を取り上げられ、暗闇の中に取り残されたので、何一つ見ることが出来ない。聾啞で盲人なので、かれらは引き返すことも出来ないであろう。」（雌牛章第17-18節）

不信心者（カーフィル）

- 不信心者（否定者）とは、イスラームの教えの基本を信じず、預言者ムハンマドが預言者であることを認めず、預言者がアッラーの御許からもたらした命令や禁止事項のすべて、もしくは一部を否定する人のことです。そうした人々はイスラームの教えの基本的な事柄に同意することも重きを置くこともせず、また価値のないものと見なすなどといった態度を示します。
- 「カーフィル」とは覆う者という意味です。信仰心がない人には、真実や正しさを覆い、誤った事柄

を信じているゆえにこの名称が与えられたのです。

- 不信心者は意識的に真実を認めず、あるいは見て見ぬふりをしてそれを覆い隠します。不信心者の来世における処遇は、クルアーンで次のように示されています。



「本当に信仰を拒んで不信者として死ぬ者たち、かれらの上にはアッラーの譴責と、天使たちおよび全人類の呪いがある。かれらはその中に永遠に住むであろう。その懲罰は軽減されず、また猶予もないであろう。」（雌牛章第161-162節）

「また（譬えば）暗闇の中で雷鳴と稲妻を伴う豪雨が天から降ってきたようなもので、落雷の恐さから死を恐れて、（戯らに）耳に指を差し込む。だがアッラーは、不信心者たちを全部取り囲まれる。稲妻はほとんどかれらの視覚を奪わんばかりである。閃く度にその中で歩みを進めるが、暗闇になれば立ち止まる。もしもアッラーが御望みならば、かれらの聴覚も視覚も必ず取り上げられる。本当にアッラーは、凡てのことに全能であられる。」（雌牛章第19-20節）



考えてみましょう

不信心者のことについて上記のクルアーンの言葉の中では、どのような説明がなされていますか。

多神教者（ムシュリーク）

- シルクとは、神と同列に何者かを置くこと、同位であると見なすこと、すなわち神の多元性を意味します。アッラーに同等者、同位者がいると見なすことです。
- ムシュリークとは、シルクを行う人のことです。
- 多神教者（ムシュリーク）は、アッラーの存在を否定しません。しかしアッラーと共に他にも神がいると見なすのです。
- 多神教者は、その特性、意志、そして力の観点から、アッラーと同位であると見なした力や存在を神とします。この存在は、生命を持つもの、持たないもの、目に見えるもの、見えないものなどがあります。
- シルクと教えの否定は互いに近いものです。多神教者とは、不信心者の一部を定義するために用いられます。多神教者はすべて不信心者ですが、不信心者がすべて多神教者とは限りません。
- イスラームでは、アッラーに同位の存在があると見なすことは最大の罪です。
- クルアーンでは次のように述べられています。「誠にアッラーは、（何ものを）かれに配することを御赦しになられない。だがその外のことは、御心に適えば御赦し下される。凡そアッラーに同位の者をあげる者は、確かに遠く（正道から）迷い去った者である。」（婦人章第116節）

イスラームの信仰において、天と地と、すべての絶対的な統治者はただアッラーです。創造はアッラーによってのみ行われます。何者もアッラーと同位ではあり得ないのです。



「アッラーは子をもうけられない。またかれと一緒に他の神もない。そうであつたら、それぞれの神は自分の創ったもので分裂しお互いに抜き出ようとして競い合う」（信者たち章第91節）

「もし、その（天地の）間にアッラー以外の神々があつたならば、それらはきっと混乱したであろう。それで玉座の主、かれらが唱えるものの上に（高くいます）アッラーを讃えなさい。」（預言者章第22節）

4

信仰—知識—行動のつながり



信仰と行動のつながり

多くの場合、人の考えと行動には統一性があります。人の考えと感情、感情と行動の間には緊密なつながりがあります。信仰する人も、その信仰と行動、行動と思考の間に緊密なつながりがあるべきなのです。

行動とは、人が行うすべての事柄です。イスラームの教えでは、アッラーのご満悦を得るために行われる事柄と、それ以外の事柄は区別されています。私たちは、アッラーのご満悦を得ることのできるような善い行いをすることが求められています。行動が信仰にのみ基づき、信仰と一致したときには、それは「善行」と名付けられます。

信仰と人の行動の間のつながりについては、クルアーンの多くの箇所でも、「信仰し、善行に励む者」と示され、信仰と行動の間に緊密な関係があることが示唆されています。それによると、何らかの事柄について信条や価値観が変化した場合には、その影響は行動にも及ぶのです。

信仰は、人が何らかの行為を継続したり、放棄したりすることにも影響を与えます。例えば、信仰する人はあることを喜び意気込んで行う一方で、他の行いを避けます。信仰は自らの行動においても示すことです。信仰は行動の改善を導きます。この観点から、善行は信仰の果実といえます。

アッラーは信仰し善行に励む者に報奨を与えられることを明らかにされています。



「信仰して、善行に励む者にとっては、至福〔トゥーバー〕がかれらのものであり、善美な所が（究極の）帰り所である。」（雷電章第29節）

「信仰して善行に勤しんだ者には、川が下を流れる楽園があろう。これは偉大な幸福の成就である。」（星座章第11節）

崇高なるアッラーは、信仰し、信仰したとおりに行動する人と、善行に励まない人を同等には扱われないと明示されています。



「盲人と正常の目の人とは同じではなく、また信仰して善行に勤しむ者と、悪行の徒とは同じではない。訓戒を留意する者は稀である。」（ガーフィル章第58節）



預言者ムハンマドは次のように言われました。「誰であれ、誠実にその心に信仰を定着させ、自らを清らかとし、正しい言葉を話し、自我を安らぎに至らせ、その性格や道徳を正しいものとすれば、救いを得ることができるだろう」（アフマド、ムスナド5/147）



話し合ってみましょう

アッラーのご満悦を得ることができる善行の、個人や社会の生活における影響について話し合ってみましょう。

信仰と行動の間に相互の結びつきがある以上、信仰は行動に、行動も信仰に影響を及ぼします。預言者ムハンマドは次のように言われました



「しもべが過ちを犯した時、その心には黒いしみが現れる。もし人がその過ちから自我を遠ざけ、許しを求め、悔悟を行えば、心は清められる。逆に同じ過ちを犯し続けていけば、心のしみは広がる。そのうちに心すべてを覆ってしまう」（ティルミズィー、タフシール75）

このことは行動が私たちの心に痕跡を残し、時間の経過とともにそれが定着し、思考に影響を及ぼすことを示しているのです。したがって私たちは過ちを犯すべきではないと同時に、悪事に対して口を閉ざしてはいけません。



「誰であれ、醜悪な行いを目にしたならば、それを手で正しなさい。もしそれができないのであれば言葉で正しなさい。それもできないのであれば、心で願いなさい。信仰の最低限の必要条件がこれである。」（アフマド、ムスナド2/104）

信仰と知識のつながり

信仰は何よりもまず私たち人間とアッラーとの間の特別な結びつきです。ここでは知識が、特別な位置を占めます。信仰することは、個人的な選択です。これは、何を信仰するかについて人が完全な自由のうちに決めなければいけないことです。この選択においてその人の知識は重要性を持ちます。崇高なる創造主は、私たちによく考え、研究することを奨められています。世界の秩序と創造を認識している人は、アッラーの存在と唯一性を信じるのが容易です。だからこそ人は、熟考するよう招かれています。

クルアーンでは「また人びとに、かれの印を明示される」（雌牛章第221節）とされています。



考えてみましょう

アッラーはどのような事柄について熟考することを求められていますか。それはなぜでしょうか。

アッラーはこの世界とその他の被造物について熟考するように導かれ、私たちがアッラーの存在を理解することを意図されているのです。それゆえ熟考すること、知識を得ることは、信仰を培い、それを深めていく上で大きな助けとなります。



「かれは夜と昼、太陽と月をあなたがたのために運行させる。群星もかれの命令に服従している。本当にこの中には、理解ある者への種々の印があり」（蜜蜂章第12節）

知識は、信仰の形成を助けると同時に、それを成熟させていく上においても大きな役割を果たします。人は知識のレベルを上げれば上げるほど、知識が持つ意味をよく理解し、信仰の強さや力が強まります。クルアーンでは、「言ってやるがいい。知っている者と、知らない者と同じであろうか」（集団章第9節）とされ、知識において深みを増した人には大きな報奨が与えられることが（婦人章第162節参照）吉報として伝えられています。偉大な神秘主義者であるユヌス・エムレも、その詩で知識と信仰の関係について次のように表現しています。

知識とは、知ることであり、あなた自身を知ることである
 あなた自身を知らないのであれば、どれほど読んだとしても何になろう
 学ぶことの意義とは、人がアッラーを知ることである
 もしあなたが学んでもそれを知ることがなければ、それは不毛な努力となる
 ユヌス・エムレ



話し合ってみましょう

「自らを知る者は、神を知る」という言葉について話し合ってみましょう。

模倣的な信仰

信仰と知識とのつながりは、信仰のあり方にも反映されます。人がただ周囲の人々のまねをして、あるいは周囲の人々に流されて信仰しているのであれば、その信仰は模倣的な信仰と呼ばれます。

模倣的な信仰の特質

- 模倣的な信仰とは、人が周囲の人を模倣して信仰することです。この場合、深い知識や論拠に基づいて思考を働かせようという気持ちはなくなります。

- この種の信仰は、無効なものではありませんが、知識によって支えられる必要があります。
- 模倣的な信仰は、しっかりとした根拠によって形成されたものではないゆえに、影響を受けやすいのです。ささいな反論や批判によって信仰が揺らいでしまう可能性があります。
- 知識を伴わない模倣による信仰は、次第に疑念を払拭することができなくなり、その悪い影響を受けてしまう可能性が高いのです。
- 模倣による信仰と頑迷さ：模倣的な信仰の場合には、十分な研究や学習が行われていないため、人々は頑迷さに陥りやすい傾向があります。この種の人々は、本質ではなく、見せかけにこだわってしまいがちだからです。
- 知識を伴わない模倣は、人を頑迷さに導きます。
- 頑迷な人々は自由に考えることができず、正しいことと誤ったことの区別ができなくなります。崇高なるアッラーは、知識を持たず模倣する人々に次のように警告をされています。



「かれらに、『アッラーが啓示されたところに従え。』と言えば、かれらは、『いや、わたしたちは祖先の道に従う。』と言う。何と、かれらの祖先は全く蒙昧で、（正しく）導かれなかったではないか。」（雌牛章第170節）

崇高なるイスラームは、知識のない模倣を、学習や研究、さらによく考えることによって取り除こうとしています。



話し合ってみましょう

頑迷さの害について話し合ってみましょう。

確証された信仰

根拠、研究、知識、理解、把握に基づいた信仰を確証された信仰と呼びます。これは人が自ら問い、研究し、学んだ結果生じた信仰です。肝心なのは、すべてのムスリムが何をなぜ信じているのか認識していることです。

クルアーンでは崇高なるアッラーは人間をよく考えることや学ぶこと、問いかけることへと招いておられます。



「かれこそは、生かした死なせられる方であり、昼と夜の交替を規制される。あなたがたはなお理解しないのか。」（信者たち章第80節）



確証された信仰の重要性

- よく考え、よく調べ、真実を見出した人は、その信仰をしっかりとした基盤の上に築くことができます。
- 人間は世界やその創造について学び、イスラームの命令や禁止事項について知識を得て、模倣的な信仰から確証された信仰の段階へと自らを高めていく責任があるのです。
- 信仰が確証されたものへと高まったときには、アッラーと、その他の被造物と人間とのつながり方にも変化が生じます。このことはクルアーンで次のように語られています。



「信者は、アッラーのことに話が進んだ時、胸が（畏敬の念で）戦く者たちで、かれらに印が読誦されるのを聞いて信心を深め、主に信頼する者たち」（戦利品章第2節）

それゆえ信仰をしっかりとした基盤の上に築き、それを高めていくためには、不断に知識を増やしていかなければならないのです。預言者ムハンマドは次のように語られています。

「知識を学ぶことは、女性、男性、すべての信者の義務である」（イブン・マアジャ、ムカッディマ 17）



話し合ってみましょう

知識は、確証された信仰の段階に達する上でどのように助けとなりますか。

- 模倣的な信仰：周囲の人の示唆や方向付けによって信仰を持つこと
- 確証された信仰：根拠、研究、知識、理解、把握に基づく信仰



単元のまとめ

信仰は、何らかの存在を心の安らぎのうちに自らのものとし、それを深く心から信じることです。信仰とは本質的に、心の動きです。それは誠実な、心からの信仰です。信仰の根本は心でそれを認めることです。信仰の対象となる事柄のすべてを信じることなく、その正しさについて疑いを持っているなら信仰したことにはなりません。

信仰と否定：信仰には、信じていることを表明すること、つまり言葉で告白することが必要です。イスラームにおいて信仰とは、崇高なるアッラーから預言者ムハンマドを通してもたらされたものが真実であると認め、それらを心から信じることです。

信仰は人の行動に方向性を与え、影響を及ぼします。なぜなら信仰は、思考、感情、行動と緊密なつながりがあるからです。この観点から信仰は、私たちの存在のすべてを包括するものです。信仰は

私たち自身、他の人々、生命を持っているか持っていないかにかかわらずその他の被造物との結びつきに方向性を与えます。信仰はすべての崇拜行為と行動の根本なのです。

カリマ・タウヒードは、イスラームの教えを受け入れること、すなわち心にある信仰を示すものです。ムスリムとなるときの最初の条件はカリマ・タウヒードを唱えることです。ラーイラーハ・イッラッラー、ムハンマダン・ラスールッラー（アッラーの外に神はなく、ムハンマドはその使者である）

カリマ・シャハーダは、アシュハド・アン・ラー・イラーハ・イラーッラー、ワ・アシュハド・アンナ・ムハンマダン・アブドゥフ・ワ・ラスールフ（アッラーの外に神はなく、ムハンマドはその使者であることを私は証言する）という言葉の唱えることです。

信仰の観点から人間は、信者、偽信者、不信心者、多神教者の四つに分類することができます。人の信仰と行動、行動と思考の間には緊密な結びつきがあります。私たちの行動には、信仰や価値観が方向づけを行います。何らかの事柄について信条や価値観が変化した場合には、その影響は行動にも及ぶのです。

信仰は、何らかの行為を継続したり、放棄したりすることにも影響を与えます。例えば、信仰する人はいあることを喜び意気込んで行方一方、他の行いを避けます。信仰は自らを行動においても示すのです。信仰は善き行動へと導きます。

アッラーはこの世界と人間以外の被造物について熟考するように導かれ、私たちがアッラーの存在を理解することを意図されているのです。それゆえよく考え、知識を得ることは、信仰を強める上での助けとなります。

知識は、信仰の形成を助けるのと同様に、それを深めたり成熟させることにも大きな役割を果たします。人は知識のレベルが上がっていくに伴って、知識の意味をよく理解し、信仰の力を強めていきます。

ただ周囲の人々を模倣して、あるいは周囲の人々に流される形で信仰しているのであれば、その信仰は模倣的な信仰と呼びます。つまり、周囲の人を模倣するように信仰しているのです。この場合、深い知識や根拠に基づいて思考を働かせているわけではありません。この種の信仰は、有効なものではありませんが、知識によって支えられる必要があります。

根拠、研究、知識、理解、把握に基づいた信仰を、確証された信仰と呼びます。すなわち、研究し、学んだ結果、生まれてきた信仰です。人は世界やその創造について学び、イスラームの命令や禁止事項について知識を身につけ、模倣的な信仰から確証された信仰の段階へと自らを高めていく責任があるのです。





単元の復習



1. 信仰の概念の中に含まれる要素の、互いのつながりを説明してください。
2. カリマ・タウヒードとカリマ・シャハーダの共通点と相違点は何でしょうか。
3. 模倣的な信仰から、確証された信仰へはどのように移行されますか。説明してください。
4. 知識を得ることは、確証された信仰へと到達する上でどのように助けとなりますか。説明してください。



確認のための問題



- 下記の項目の中で、信者の特性でないものはどれでしょうか。
 - 礼拝の際には畏怖の気持ちを持つ
 - ザカートを支払う
 - 意味のない仕事や無駄な言葉から顔をそむける
 - 託されたものや、自分のした約束を尊重する
 - 人の欠点を探る

- 下記の項目の中で、信仰の基本ではないものはどれでしょうか。
 - 礼拝をする
 - アッラーを信仰する
 - 来世を信じる
 - 啓典を信じる
 - 預言者を信じる

- イスラームを受け入れた人は、下記の項目の中で何を最初に行いますか。
 - 断食をする
 - 礼拝をする
 - 巡礼を行う
 - ザカートを支払う
 - カリマ・シャハーダを唱える

- 偽信者の性格は、下記の項目の中でどれでしょうか。
 - 信仰しているように見えて心から信仰していない
 - 心で受け入れて言葉で告白する
 - アッラーと同等のもの、同位者がいると見なすこと
 - イスラームの教えの基本的事項を認めないこと
 - イスラームの教えの基本的事項の一部を認めること

- 研究し、学んだ結果、生まれてくる信仰は下記の項目の中でどれでしょうか。
 - 模倣的な信仰
 - 確証された信仰
 - 経験的な信仰
 - 代表的な信仰
 - 獲得された信仰